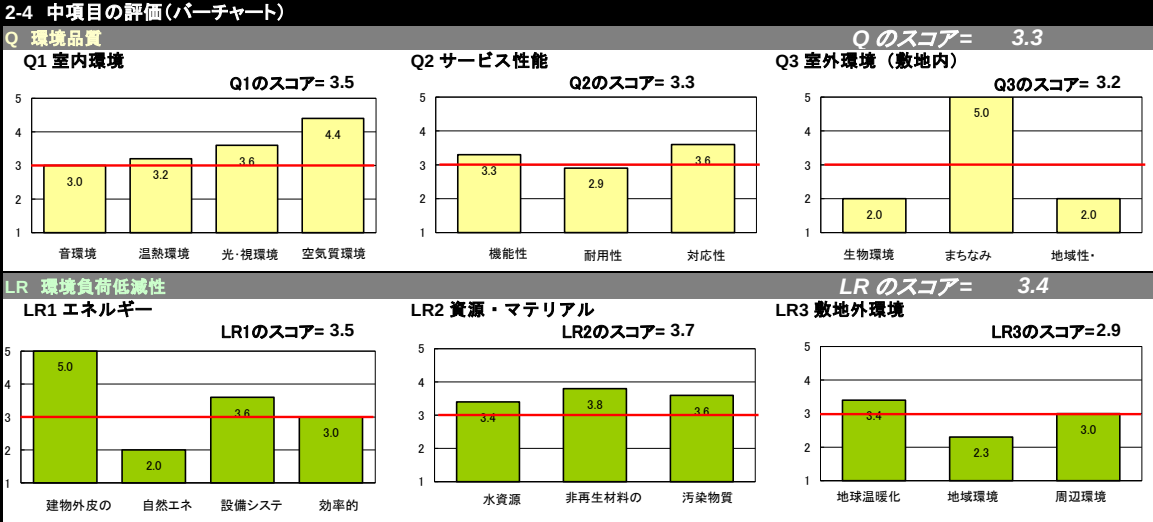
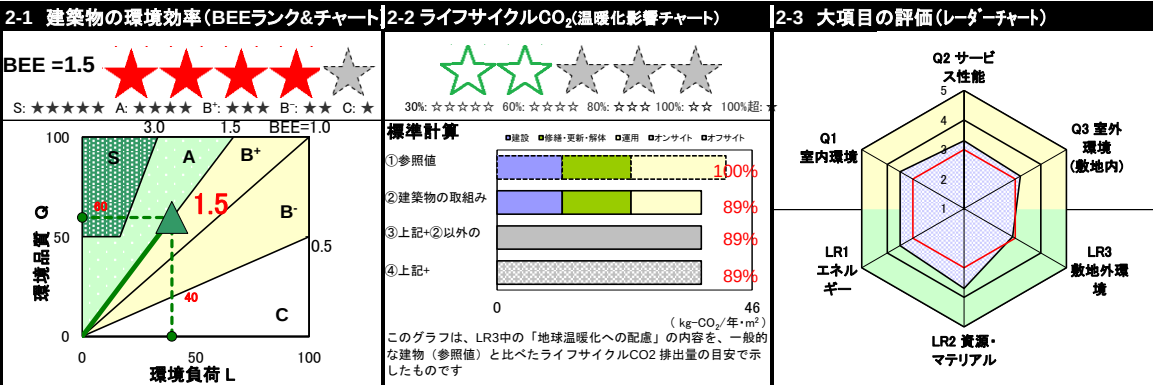




評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	西尾高等学校併設中学校(仮称)校舎建築工事	階数	地下0 階地上3 階	
建設地	愛知県西尾市桜町奥新田2-2、中新田1-2、伊藤町伊藤東二38-2、大道東1-1 他2筆	構造	RC造	
用途地域	第1種中高層住居専用地域、防火指定なし	平均居住人員	200 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年	
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2026年2月 予定	評価の実施日	2024年06月05日	
敷地面積	2,559 m ²	作成者	(株)綜企画設計 保崎駿太郎	
建築面積	804 m ²	確認日	2024/8/28	
延床面積	2,050 m ²	確認者	(株)綜企画設計 犬飼和行	



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.4	2.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.5	3.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	16.2 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
	<外装材に使用した地域性のある材料>
	愛知県産のタイル
	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

LR-3 2 敷地緑化の割合を計算

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



Q-3 1 生物環境の保全と創出

表 4-1-1 生物環境の保全と創出

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
西尾高等学校併設中学校(仮称)校舎建築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階											
配慮項目		独自基準	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体		
		重点項目			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質											3.3		
Q1 室内環境							0.40			-	3.5		
1 音環境					0.1	3.0	0.15			-	3.0		
1.1 室内騒音レベル					3.0	3.0	0.40			-			
1.2 遮音					0.4	3.0	0.40			-			
1 開口部遮音性能						3.0	0.30			-			
2 界壁遮音性能						3.0	0.30			-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	0.20			-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	0.20			-			
1.3 吸音						3.0	0.20			-			
2 温熱環境					0.3	3.2	0.35			-	3.2		
2.1 室温制御					0.5	3.4	0.50			-			
1 室温			窓システムSC:0.36程度、U=3.32(W/m2K) 程度、外壁・その他: U=0.66(W/m2K) 程度		3.0	3.0	0.60			-			
2 外皮性能					3.0	4.0	0.40			-			
3 ゾーン別制御性					3.0	-	-			-			
2.2 湿度制御					3.0	3.0	0.20			-			
2.3 空調方式					3.0	3.0	0.30			-			
3 光・視環境					0.2	3.6	0.25			-	3.6		
3.1 昼光利用					0.3	4.2	0.30			-			
1 昼光率			2.5%≦〔昼光率〕。		3.0	5.0	0.60			-			
2 方位別開口						-	-			-			
3 昼光利用設備					3.0	3.0	0.40			-			
3.2 グレア対策					0.3	4.0	0.30			-			
1 昼光制御			カーテンと庇を合わせることでグレアを抑制します。		5.0	4.0	1.00			-			
3.3 照度					3.0	3.0	0.15			-			
3.4 照明制御					3.0	3.0	0.25			-			
4 空気質環境					0.2	4.4	0.25			-	4.4		
4.1 発生源対策					0.5	5.0	0.50			-			
1 化学汚染物質			JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。		3.0	5.0	1.00			-			
4.2 換気					0.3	3.0	0.30			-			
1 換気量			建築基準法(シックハウス対応含む)および学校環境衛生基準を満たす換気量の1.4倍となっている。		3.0	3.0	0.33			-			
2 自然換気性能					3.0	3.0	0.33			-			
3 取り入れ外気への配慮					3.0	3.0	0.33			-			
4.3 運用管理					0.2	5.0	0.20			-			
1 CO ₂ の監視					3.0	-	-			-			
2 喫煙の制御			ビル全体の禁煙が確認されている。		3.0	5.0	1.00			-			
Q2 サービス性能					-	-	0.30			-	3.3		
1 機能性					0.4	3.3	0.40			-	3.3		
1.1 機能性・使いやすさ					0.4	3.0	0.40			-			
1 広さ・収納性					3.0	-	-			-			
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	-			-			
3 バリアフリー計画		独自			3.0	3.0	1.00			-			
1.2 心理性・快適性					0.3	4.0	0.30			-			
1 広さ感・景観 (天井高)					3.0	3.0	0.50			-			
2 リフレッシュスペース					3.0	-	-			-			
3 内装計画			建物全体のコンセプトが明確にある。		3.0	5.0	0.50			-			
1.3 維持管理					0.3	3.0	0.30			-			
1 維持管理に配慮した設計					3.0	3.0	0.50			-			
2 維持管理用機能の確保					-	3.0	0.50			-			
2 耐用性・信頼性					0.3	2.9	0.31			-	2.9		
2.1 耐震・免震・制震・制振					0.4	3.0	0.48			-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	3.0	0.80			-			
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.20			-			
2.2 部品・部材の耐用年数					0.3	2.9	0.33			-			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.23			-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②				2.0	0.23			-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.09			-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.08			-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			主要な用途上位3種の2種類以上にC以上を使用。			4.0	0.15			-			
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.23			-			
2.4 信頼性					0.1	3.0	0.19			-			
1 空調・換気設備					3.0	3.0	0.20			-			
2 給排水・衛生設備					3.0	3.0	0.20			-			
3 電気設備		②			3.0	3.0	0.20			-			
4 機械・配管支持方法					3.0	3.0	0.20			-			
5 通信・情報設備					3.0	3.0	0.20			-			

3 対応性・更新性			0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出			-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			-	5.0	0.40	-	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.60	3.0	5.0	0.30	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	2.0	0.20	-	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.74	3.0	3.6	0.30	-	-	3.6
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.7
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.8	0.63	-	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	5.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	4.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	4.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮			-	3.4	0.33	-	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			0.3	2.3	0.33	-	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.60	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	3.0	0.20	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.20	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE 建築(新築)2016年版+あいち県準引き

西尾高等学校併設中学校(仮称)校舎建築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	3.5
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	2.0
③ 敷地内の緑化				
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:16.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		3.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	愛知県産のタイル
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式
各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア=各配慮項目の評価点
- ②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
重点項目スコア=重みの総和
- ④地域材の活用
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 西尾高等学校併設中学校(仮称)校舎建築工事

計画上の配慮事項	
総合	利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境	2.5%≦[昼光率]。 ビル全体の禁煙が確認されている。
Q2 サービス性能	建物全体のコンセプトが明確にある。 階高:3.9m以上。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽により、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	BPI=0.60 BEI=0.74
LR2 資源・マテリアル	PRTR法非該当の材料を1種採用。 LGS使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率89%
その他	特になし。